

単独行はやめよう

1) 単独行はやめよう

一昨年のもので、当クラブのT会員が護摩堂山で倒れたのです。彼は会山行以外は一人で山へ出かけることが多く、私もあちこちの山で行きあったことがありました。又、彼は高血圧の持病も持っていました。ご存知のように護摩堂山から秋葉山に至る西山丘陵には登山道、林道、自然遊歩道、杣道などが複雑に入り組んでいます。当然あまり人の入らない道もあるのです。Tさんは護摩堂山のメインルートから外れたコースで発症し、倒れたのです。彼は運よく発見され命は助かりましたが、倒れてからの時間の経過から重い後遺症が残りました。



又、もう3～4年前になりますが、旧会員の方(私が入会した時はすでに退会されていたので面識はありません)が2月の秋葉山で亡くなる事故は発生しました。行方不明になった翌日は当会の会員も2～30人が捜索に加わり、発見に至りましたが残念ながらその方は助かりませんでした。Tさんも秋葉山の旧会員の方も単独行でした。

近くの山だから、標高が低いから遭難しない理由にはならないのです。家を出る時に行く先も告げないなどというのは自殺行為と言っていいでしょう。

実は私も昨年単独行をやってしまった経験があります。その山域は三分の一ほど歩いたことがあったのですが三分の二は初めてでした。同行予定だった家人が体調を崩したためのやむを得ずの単独行でした。しかもその山域にその日、人影はなく寂しいかぎり、かつ歩くコースは家人にいつてあ

るものの、もしけつまずいてけがでもして動けなくなったらどうしようと不安でいっぱいでした。幸いにも無事予定のコースを歩き切りましたが、もう決してやらないという決心をしたのです。

2008年に私は初めてのリーダー山行をしました。山は一切経山と東吾妻山で6月初旬でした。例年になく残雪の多い年で姥ヶ原からの東吾妻山への登りは登山道を覆いつくす残雪に時に行く手を阻まれる状況の連続でした。なんとか山頂に立ち下山にかかりました。もう少しで姥ヶ原の木道というところで、スニーカーの若者が東吾妻山に向かってきました。途中の鎌沼の右岸は前大巔から張り出した大きな雪田が木道を飲み込んでいるため、15mも上部へ高巻きしなければなりません。聞いてみるとその若者は浄土平からほぼ我々と同じそのコースを来ていました。スニーカーはドロドロに濡れていました。私はそこで彼を説得して引き返させました。彼の後ろからは誰も来ておらず、単独行の彼をフォローできる人(善意の他人)はいない。これはやばい、と思ったからです。彼を止めたことは今でも正しかったと思っています。楽しかるべき山歩きが悲しい結末を迎えるようなことがあってはなりませんよね。皆さん「単独行はやめましょう」ね。

